

落ち着いて勉強がはかどる場所 今まで図書館に支えられてきました

幼 稚園の頃から通い慣れた山本町図書館は、近石真鈴さんにとって自宅よりも集中できる学習の場となっています。現在、高松短期大学で簿記やパソコン操作など、ビジネス社会に必要な教養を学んでいる近石さん。図書館で選ぶ本もそれらの知識を深めてくれるものが多いと言います。

「今はワードの検定を受けるために、パソコン関連の本を読むことが多いです。図書館に来たら参考になる本を片手に、3時間から半日ほど勉強しています。合間に、AVコーナーで映像を見られるのが、息抜きになっていいですね。」



近石 真鈴さん(山本町)
日当たりの良い窓際の席は、近石さんのお気に入りの場所。ここで勉強をしたり、本を読むことが多いそうです。

図書館に通う頻度……月3～4回
よく読む本のジャンル……実用書、小説
お気に入りの図書館……山本町図書館

近石さんと図書館との関係を振り返ってみると、小学生のときは偉人の伝記を借りて読むのが大好きな女の子だったと言います。そして中学生になると、借りる本分野は歴史や理科、科学にまで広がります。高校生のときはテスト勉強をするために訪れることが多くなりました。

「午前中から友達と勉強を始め、お昼は近くのスーパーへ買い出しに行っていました。そして、また午後から勉強。ここなら静かです。短大生になって就職活動を始めるよ。」



▲近石さんが小学生のときには、伝記をよく読んでいました。「教科書では分からない、人物の違う一面を知れるのが面白かったです」



▲友達に勧められて好きになったのが山田悠介さんの小説。『スイッチを押すとき』を読んで感動したシーンを教えてくれました

「気になったこの本は、とりあえず読んでおきたい。そんなときに図書館は気軽に利用できるのですね。とてもお世話になっています。これからも通い続けたいですね」

「あなたは、図書館はどんな場所ですか？」
そんな質問を、図書館好きの皆さんに聞いてみました。一人ひとりの興味深いストーリーをご紹介します。



Yamamoto Library



Takase Library



Mino Library



Toyonaka Library



Takuma Library



Nio Library



Saita Library Room

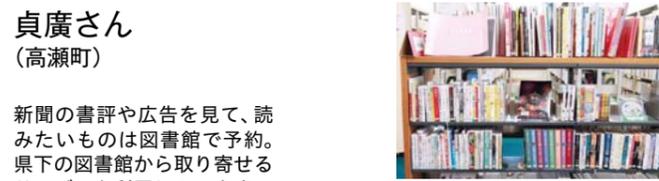
私と図書館

まちの図書館へ

特集
本と人、人と人をつなぎ
未来を拓く場所

読書の楽しみに気軽に触れられる図書館は、地域の人々との交流が生まれる場所でもあります。図書館で過ごす時間を日常に加えてみると、本や人との出会いによって新しい世界が広がることも。今月は、知識欲と好奇心を満たす図書館をご案内します。

楽しみを与えてくれるのが図書館 気に入った作者の本を借りています



貞廣さん
(高瀬町)

新聞の書評や広告を見て、読みたいものは図書館で予約。県下の図書館から取り寄せるサービスも利用しています。

▲図書館でよくチェックする新刊コーナー

図書館に通う頻度……週1回
よく読む本のジャンル……時代小説
お気に入りの図書館……高瀬町図書館

「時間があれば本を読む」という貞廣さんの通算貸し出し冊数は、図書カードの記録によると、なんと4,100冊超え。「だいたい1日に1冊のペースで読んでいます。大筋を流し読みすることもあれば、内容に共鳴するものは丁寧に読むようにしています。いいところ取りなんです」。

貞廣さんが主に好んで読むのは時代小説です。藤沢周平や宇江佐真理、諸田玲子などの作家が好きで、気に入った作品は何度も読み返すほど。図書館では、これらの

作家の本を借りるほか、新刊もチェックしています。

「読んだことがない作家の本が新しく出ていたら、試しに借りてみて、面白かったら他の作品も読み進めていきますね」。

豊かな読書経験と実体験から得たのは、「人を決めつけてはいけない」ということでした。

「良い人・悪い人という印象は付き合ってみると変わりますから。登場人物の身に置き換えて、心情の変化を追っていくうちにそう思うようになりました」。

図書館に来ると、知らないことが分かるよ 図書館を探検するのが大好き！



三井 柑奈さん・
三井 悠太郎さん(仁尾町)

柑奈さんは夏休みの自由研究をするために猫の本を、悠太郎さんは最近お父さんとよく行く釣りの雑誌を読みたいと、選んでくれました。



▲2人が初めて図書館に来たときの写真

図書館に通う頻度……月1~2回
よく読む本のジャンル……絵本、図鑑
お気に入りの図書館……仁尾町図書館

仁 尾小学校2年生の三井柑奈さんと悠太郎さんが図書館デビューをしたのは、2歳のときでした。それからお母さんと一緒に図書館に通い始め、小学生になった今でも図書館で本を借りて読むのが2人の楽しみの一つ。

「宿題を終わらせたなら、図書館に行きます。私は絵がかわいい物語や冒険の本が好きです。文章を讀んで物語の世界に入るのが楽しい」と柑奈さん。一方、悠太郎さんは生き物の本に興味津々。

「生き物のお話シリーズや恐竜

の本をよく読みます。この前は、古代生物のことが知りたかったので、図書館のお兄さんに本を探してもらいました」。

図書館に来た日は、それぞれ好きな本のコーナーに行つて自分の読みたい本を選びます。そして、ものの数分で机の上は選んだ本で山積み。

「読みたい本がいっぱい。だから図書館に来るのが大好き」と声を揃えて話す2人。さて、これからのか、とっても楽しみですね。

私たちにとって“まちの図書館”って何だろう？

現在、市内には図書館が6つ、図書室が1つ、設置されています。図書の蔵書数は、約38万8千冊以上(平成29年3月31日時点)。県下で3番目の数を誇ります。このように、三豊市は豊かな読書環境が整っていますが、では皆さんにとって、図書館とはどんな存在でしょうか？本を借りるところ、勉強するところ。はたまた、あまり利用したことがない人もいるかもしれません。ここでは、香川大学生涯学習教育研究センターで生涯学習について研究する山本珠美准教授に「まちの図書館」についての意見を聞いてみました。

「図書館は、数ある公共施設

の中でも一番、あらゆる年齢の人が利用できる場所だと言えます。しかも、必ず本を借りないといけないわけでもなく、用事がなくてもふらっと立ち寄れるところ。利用するのにお金もかかりません(笑)。つまり、利用のハードルが最も低い公共施設なんです。私自身も子どもの頃から図書館が好きでした。今も週1回は大学や市立の図書館に通っているほど。図書館は子どもからお年寄りまで、一生関わっていける場所でもあり、こんなに誰もが気軽に使える場所はないように思います。図書館に行ったことがない人も、夏は涼しくて快適だからとか、何か

面白そうだからというくらいの軽い気持ちで足を運んでみてはいかがでしょうか。もしかしたら、本を借りたことがきっかけで、読書好きになるかもしれません。図書館の良さをたくさんの人に感じてほしいですね」。

図書館は小さい頃から身近な存在で、よく通っています。そこに来ている人との交流も楽しいですね。



▲香川大学の山本珠美先生(中)と図書館ワークショップ(P10~)に参加した教育学部4年の竹安麻結さん(左)、青木望さん

一番気軽に、誰もが利用できる公共施設

図書館に通うことは 私の生活の一部になっています



込山 照子さん(財田町)

「子どもの頃から本に親しんでもらいたい」と放課後児童クラブで読み聞かせる絵本をよく借りています。

図書館に通う頻度……週1回
よく読む本のジャンル……小説、雑誌、絵本
お気に入りの図書館……財田町公民館図書室

白 分がしたいことをしよう。そう決心して、今年4月に長らく務めた職場を退職した込山照子さん。やりたいことの1つが本を読む時間を充実させることでした。

「新聞に載っている本のランキングやテレビで紹介された本をチェックして、興味が沸いたものを手帳にメモしています。図書館で予約した本が手元に届いたときは、すごく嬉しいですよ」。

このときも、2冊を予約しており、図書館をよく利用している様子うかがえます。また、5月に放課後児童クラブの指導員を始めからは、子どもたちに読み聞かせをするために、絵本を借りることに。



▲「甲斐信枝さんの生き方も憧れ」と込山さん

とも多くなりました。

「この間、絵本作家・甲斐信枝さんの『たんぽぽ』を借りて、子どもたちに読んでみたら、いつもはやんちゃな子が膝の上に座って聞いてくれたんです。かわいかったですよ。絵本を通して、作者が何を言おうとしているのか、伝えられたらいいですね。子どもにも喜んでもらえて、本を読む時間もある。今が一番自分らしく生きられています」。

物語との出会いの場

おはなし会へ 行ってみよう!



絵本や紙芝居など、主に子ども向けの読み聞かせをしています。開催時間に会場の図書館へお越しください。

【高瀬町図書館】 ☎72-5631

- おはなしの会たかせ
毎月第4土曜日 午前10時30分～
- げんきのき
毎月第1・3土曜日 午前10時30分～

【山本町図書館】 ☎63-1041

- えほんのへや
毎月第4土曜日 午前10時～

【三野町図書館】 ☎73-3121

- ももの会
毎月第2土曜日 午後2時～

【豊中町図書館】 ☎62-6430

- おはなしボランティア「夢ふうせん」
毎月第2土曜日 午後1時30分～

【詫間町図書館】 ☎83-6828

- 白ゆりクラブ
毎月第1土曜日 午後2時～
- えほんのくに チャオ
毎月第2土曜日 午前10時～
- おとひめズ
毎月第3土曜日 午後2時～
- 詫間町図書館 友の会
毎月第4土曜日 午前10時～
- おはなしびっくりにばこ
毎月第5土曜日 午前10時～
- えいごのおはなし会
毎月第2日曜日 午前11時～

【仁尾町図書館】 ☎56-9565

- あいびいず
毎月第2土曜日(10月除く) 午前10時～

【財田町公民館図書室】 ☎67-0108

- まかろん
毎月第3水曜日 午後2時15分～

おはなし会の活動に 参加したい!

本が好き。子どもが好き。自分の声で物語を届けたい。そんなおはなし会の活動に興味がある人、大歓迎! 資格や技術は要りません。詳しくは、各図書館にお問い合わせください。



ももの会

▲この日のテーマは「こわ～いおはなし会」。おばけや妖怪が出てくる絵本や紙芝居のお話を、子どもたちは目を輝かせながら聞いていました



▲子どもたちが見やすいように、本の向け方にも気を配っています



▲刺しゅう入りのエプロンがトレードマークのももの会の皆さん

ストーリーが
分かりやすく
楽しかったです

おはなし会で
お友達に会えるのが
嬉しいな



ももの会

平成7年結成。元保育所や幼稚園の先生など、子どもたちと関わるのが大好きなメンバー10人で無理なく楽しく活動中。
【活動日/場所】
毎月第2土曜日午後2時～/三野町図書館

「おはなし会で読んだ絵本をその場で借りてくれたときはとっても嬉しいですね」と話すのは「ももの会」の中野しづきさん。7月29日に三野町図書館で行われた、「こわ～いおはなし会」には、親子65人が参加しました。ストーリーテリングから始まり、絵本、歌、紙芝居、手遊びといったバラエティ溢れる構成で、その場の参加者を物語の中へと引き込んでいきます。

「来てくれる子どもの年齢や季節に応じて、読む本を決めています。子どもたちの喜んでる姿を見たときに何よりやりがいを感じます」。

図書館のおはなし会へ

市内の図書館で開かれているおはなし会。ボランティアの皆さんが本と子どもたちとの出会いを作り続けています。



夢ふうせん

▲絵を貼ったり剥がしたりして物語を展開するパネルシアター。絵は一つひとつ、自分たちで作って準備しています



▲メンバー募集中!「楽しく個性を発揮できる場ですよ」

おはなしボランティア 「夢ふうせん」

平成6年に結成。現在は、子育て中のママも含めたメンバー12人で活動している。
【活動日/場所】
毎月第2土曜日午後1時30分～/豊中町図書館

「夢ふうせん」のおはなし会が始まるやいなや、子どもたちは夢中になって聞く体勢へ。物語の中での問いかけに答えたり、面白い場面で笑ったり、表情を豊かに変えていきます。

「作品をストリートに伝えられるように、はっきりと話すことと、楽しい雰囲気作りを心掛けています」と代表の田井公子さん。絵本の読み聞かせやストーリーテリング、パネルシアターなど、さまざまな手法でお話を繰り出していくスタイル。話し手は、数日前から準備をし、読む練習も念入りに行っています。

「長く活動を続けていると、子どもたちの成長していく姿が見られます。ここで出会う子どもたちから、エネルギーをもらいながら、今後も続けていきたいですね」。



▲毎月第1土曜日は高瀬町図書館で工作の会が開かれています。この日は猫の貯金箱を作りました

げんきのき

リボンをつけて、
かわいい貯金箱が
できたよ



▲工作の前には、絵本の読み聞かせの時間があります

げんきのき

平成13年に活動スタート。8人のメンバーでおはなし会に取り組んでいる。7月と12月に開催しているコンサートも好評。
【活動日/場所】
毎月第1・3土曜日午前10時30分～/高瀬町図書館

涙が出るほど心に響いた読み聞かせ体験が、「げんきのき」代表・宮武佐代子さんの活動の始まりでした。今では、高瀬町図書館でのおはなし会を中心に、依頼があれば幼稚園や小学校などへも出向いています。

毎月第1土曜日には、おはなし会と合わせて、工作を実施。作った後も子どもが遊べるようにと、題材選びにも工夫が光ります。事前に、子どもでも無理なく作れるように準備してくれているのも嬉しいところ。

「親子で一緒に取り組む時間を作れたら。この活動を通して、無限の可能性を持つ子どもの視野を広げられたらいいなと思います」。



▶工作のサポートをする「げんきのき」メンバーの2人

Library Column



①財田小学校図書館司書の藤川絵美さん ②公共図書館の並べ方のルールが自然に身に付くように、壁には分類の説明を掲示しています ③本のラベルが大きく表示されているので、どこに何の本があるか探しやすい工夫も

学校の図書館づくりと 学習のサポートを担う司書の存在

現在、市内の小中学校には、11人の学校図書館司書がいます。市では、学校図書館司書を各校へ配置するため、平成25年度から毎年増員を進めているところです。そこで今回は、学校図書館司書にスポットを当て、その取り組みについて財田小学校で学校図書館司書を務める藤川絵美さんに聞きました。

「開校した当初は、財田中小と財田上小の両方から本が集められた状態でした。そこから分類を始め、整理していきました。子ども

たちが公共図書館でも本を探しやすいように、ここでも同じルールで分けて並べています」

また、学校図書館司書は授業に関連した本の提供もサポート。例えば財田小学校では、国語で物語を習っていれば、その作者の作品を、理科で昆虫のことを学んでいれば、関連の本を集めてコーナーを作っています。こうして、本と子どもたちとの接点を広く作ることで、学習の理解が深まり、活発な読書活動にもつながっています。

「子どもたちには、たくさんの

財田小学校 図書館

本の中から必要な情報を選ぶ力を身に付けてもらえれば嬉しいです。いろいろな考え方があったらいいですね」と、藤川さんは今日も笑顔で子どもたちを図書館に迎え入れています。



▶司書の先生は子どもたちにも慕われる存在



▲5万冊の蔵書数を誇る館内



▲英語の絵本も充実

理工系図書が充実。一般の人でも利用できる高専の図書館

香川高等専門学校詫間キャンパス図書館

プログラミング技術などの情報系書籍を始め、通信工学、電子工学などの理工系の分野が幅広く揃っています。また、文学や英語の本も増えています。学校の雰囲気を味わいながら、専門書を探しに行ってみませんか。

- 利用方法 本人確認書類(免許証、保険証など)を持参し、利用者登録してください。
- 貸出冊数 5冊まで ■貸出期間 2週間
- 開館時間 月～金:午前8時30分～午後8時(休業期間中は午後5時まで)
土:午前10時～午後4時30分(休業期間中は閉館)
- 問い合わせ 香川高専詫間キャンパス図書館 ☎83-8508



▲外観

図書の貸し出し

三豊市の図書館では、1人10冊まで本を借りられます。期間は2週間。借りた本は、市内の図書館ならどこでも返却できます。本が返ってくるまで、職員は元の場所へと戻しに行き、また次の人が探しやすいように本棚をきれいに整えます。

貸し出しカウンターでは、本のリクエストを受け付けたり、資料検索のお手伝いもしています。お気軽にお声掛けください。



▲貸し出しカウンターは利用者の皆さんと交流できる大事な場所



▲他館で返却された本は、回送車で元の図書館へ運んでいます

図書館の仕事

市民の皆さんに気持ち良く利用してもらうために、その思いを持って、日々現場で働く職員の仕事を追いました。



図書の修繕

たくさんの方に読まれる中で、本のページが破れたり抜けたりすることがあります。それらを直すのも職員の仕事。ときには、ひどく汚れた本もあるそう。みんなの本は大切に扱いたいですね。



▲ページが取れそうところは糊付けて補強します

選書

新しい本をなるべく早く貸し出しできるようにと、各館では毎週15〜30冊の本を購入しています。話題の本、要望の多い本、家庭で購入するには高価な辞典や図鑑などを中心に、幅広く選んでいます。



▶同じような蔵書がないか確認しながら購入する本を選びます

また、各館の担当者が集まる選書会では、「三豊市に1冊は残しておきたい」という観点で、高額本の購入を確認したり、同じ本を3冊以上買う場合があれば、その必要性を検討したりしています。



▶本の購入を検討する選書会は2カ月に1回開催

もっと使いこなしたい図書館サービス

図書館情報はHPで検索

三豊市図書館HPでは、蔵書の検索ができるほか、新しく入った本や図書館のイベントなどをお知らせしています。ぜひ、皆さんの図書館ライフにご活用ください。



三豊市図書館 HP▶

本の取り寄せやリクエストを受け付け

最寄の図書館にない本で、市内の別の館にある、または県立図書館や他市町の図書館にある場合は、取り寄せて借りることができます。また、本のリクエストも受け付けていますので、図書館職員にお声掛けください。

人気の本は予約が便利

新刊や話題の本は貸し出し希望者が多いため、早めに予約するのがおすすめです。予約順に貸し出しし、順番が来たら図書館から連絡します。



▶予約本は分けて管理されています

赤ちゃんへ絵本をプレゼント

4カ月検診の通知と一緒に「ブックスタート」の案内をお送りしています。市内図書館全てで引き換え可能です。初めての読書体験を始めませんか。



▲絵本が2冊入っています(内容は変更する場合あり)

図書館が大好きな人
手を挙げて～

図書館の未来を話し合う、ワークショップを開催しました

▶模造紙が付箋で埋め
尽くされました



▲小学生グループの柔軟な発想に会場一同が感心していました



▲「イケメン館長がいたら楽しいですね！」という意見も

“図書館がこうなったらいいな！”
ワークショップで出た意見

- 図書館で勉強を
教えてもらいたい
- 図書館で
お泊り会が
したい
- ペットルームが
あったいな
- BGMが流れる
図書館
- 年配の人には
本の宅配サービス
をする
- 夜も開館してい
たら使いやすい
- 赤ちゃんを
寝かせられる
場所がほしい
- 借りた本のデー
タを提供してく
れる
- 話せるスペース
と静かなスペース
を分けてもらえ
るといい
- ショッピングセ
ンターに返却ポ
スト
- 飲食できる
スペースがあれば
- 集中できる
個室がほしい
- 本をたくさん借
りた人にはTシャ
ツをプレゼント！
- パパ向けの
イベントが豊富



▲図書館利用者、図書館司書、おはなし会のボランティアさん、学校図書館司書、愛育会などが参加したワークショップ。みんなでLibrary（図書館）のLのポーズをとって記念撮影

**夢いっぱいユニークな意見
が出揃ったワークショップ**

会場が和んだあとは、いよいよ本題へ。参加者たちは、「図書館でこんなことができれば、もっと好きになる」「こうなったら面白いんじゃないか」という観点で一つひとつ、付箋に意見を書き出していきます。今回、進行役の香川大学山本珠美先生から伝えられた唯一のルールは、「人の意見を否定しないこと」。そのため、図書館に対する固定観念を取っ払った自由な意見が発表されていきました。

「図書館ホテルがあったら楽しそう」「自然と触れ合えるスペースがほしい」「小さい子ども連れのママがもっと来やすいような空間づくりが必要」「アニメ化した本を増やしてほしい」…。施設のこと、サービスのこと、図書のこと、いろいろな世代と立場から、日頃感じるニーズや夢に溢れた図書館へのリクエストが集まりました。

「今日は、たくさんのユニークな意見が出てきました。すぐには実現が難しいこともあるかもしれませんが、何かできる方法が



▲自分の意見をグループ内のメンバーに紹介します



▲「こんな図書館になったらいいな」と思うことを付箋に記入



▲似た意見を集めて、分類ごとに見出しを付けていきました



▲積極的な意見が出ていた中学生グループ



▲進行は香川大学の山本珠美先生。「今日は図書館をもっと良くするために、日頃思っていることを全部言ってみましょう」

あるはずですが。今後は、こうしたこれらを実現できるかについてアイデアを出し合ひましょう。いろいろな人に考えてもらいたいですね」と山本先生。こうして、理想の図書館について話し合う、第1回目のワークショップは幕を閉じました。

**将来の図書館を見据えて
図書館基本計画を策定します**

今回のワークショップで出た貴重な意見は、現在策定中の「図書館基本計画」に取り入れていきます。10月には、その素案について、意見をいただくためのパブリックコメントやHPでお知らせしますので、ご協力よろしく願います。

▼問い合わせ
生涯学習課 ☎73・3135

**可能性に満ちた
みんなの図書館
みんなで考えて
本と人、人と人が
もつとつながる場所へ**

魅力ある図書館にするために

8月6日、豊中町図書館で「図書館ワークショップ」が開催されました。現在市では、今後の図書館の具体的な運営方針を示す「図書館基本計画」を策定するため、検討を進めています。今回のワークショップは、この基本計画を作るにあたって、利用者の皆さんや図書館に関わる人々の意見を広く取り入れるために行われました。参加者は、小学生から大人までの利用者、図書館ボランティア団体、図書館司書、学校図書館司書、愛育会、香川大学の学生など計60人。ワークショップの前半では、図書館司書が館内を案内して、設備や本の配置、掲示の工夫などを説明。その後、7つのグループに分かれて図書館の好きなところを話しながら自己紹介をしていきました。その中には、「読みたい本が見つかる」「静かな空間で落ち着ける」「たくさん本があって、見ているだけで楽しい」といった声があり、それぞれが共感しながら会話を弾ませる一場面もありました。

図書館内を説明しながら案内▶

